

公表日

2026年 2月 20日

事業所名

こぼんはうすさくら 横浜鶴見教室

保護者等数(児童数) 47名

回収数 40件(割合85%)

		チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	36	1			3 広いと感じる。	導線を考え上手く活用し無駄のない活動に繋げていく。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	36				4 一人一人対応している。 4 どの先生がこのクラス担当かが分からない。	マンツーマン対応に関しては職員同士で共有する時間や、ノートに記載して統一を図っている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	32	2			6 手すりがあるので安心している。	階段の上り下りの際は必ずつかむように声掛けしたり、子どもの様子から目を離さないようにしている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	36				4 事業所にある遊具は自宅にはないことも多く楽しみにしている。	
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	39	1			どのように接したら上手くいったかなどの情報の共有を行っている。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	38	2			五領域に基づいた活動内容を提供している。	お子さまの希望を取り入れてプログラムを作成し、期待感を持って参加できるように配慮している。
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	39	1			子ども目線で作成されていると思う。丁寧に計画を作成してくれる。	子ども本人と個別支援計画の目標を確認し、納得して目標達成できるようにしている。
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	38	2				
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	38	2			プログラム内容がどのような目的・目標があるかを明記している。	記録が簡略化されないよう気をつけている。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	38	2			ちゃんと飽きないようにされていると思う。毎月楽しいプログラムを考えてくれる。	プログラム名が同じであっても、同じ内容にならないように配慮している。
11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	13	3	7	17	17 学校で障害がない友達と関わっているので問題はない。	今後は地域のイベントにも参加していきたい。	
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	37				3 きちんと説明されている。	ご質問に対してお待たせしないよう、また、確実にご説明できるようにしている。
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	40					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	13	6	10	11		
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	38	1	1			
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	37				3 時々ある。電話で丁寧に相談にのってもらっている。	お電話での相談支援に対しても丁寧に対応するように心がけている。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	37				3	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	13	6	10	11	11 保護者同士の交流は学校であるので必要を感じない。学校や習い事があるので父母の会はなくてもいい。	教室開放の秋祭りを、今年も開催できた。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	31	2		7		
20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	37	3			HUGを通じて日々の状況を丁寧に伝えてくれている。	活動の内容や意図もお伝えできている。	

	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	37			3	発信していると思う。インスタグラムや会報誌を楽しみにしている。	定期的にSNSを発信することで活動内容をお知らせしている。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	40					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	34	1		5		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	35	1		4	定期的を実施している様子を確認している。	SNSや会報誌などで様子をお知らせしている。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	34	1		5		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	35	1		4		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	35	5				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	35	5			わくわくしながら通っている。日によってむらがある。こぼんに行くことを嫌がる事はない。	クラブ活動を取り入れた。プログラムとは別の活動でお子様の興味関心があることに着目している。
	29	事業所の支援に満足していますか。	39	1			満足している。先生方が優しく接している雰囲気を感じている。細かいフォローをしてくれる。親子で助けられている。	感謝の気持ちでいっぱいです。

公表日

2026 年 2 月 20 日

事業所名

こぼんはうすくら 横浜鶴見教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5		定期的に活動スペースや導線の確保・見直しを行う	多動・活動的なお子さまの行動に注視して物の配置を工夫する。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		活動中、声を掛け合い必要な支援が誰であつても対応できるようにしている。	曜日によりもう少し職員の手があると支援の幅が広がると感じることがある
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	1	クールダウンスペースをパーテーションで区切っている。	バリアフリーは構造上難しい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		リラックスタイムにはBGMや兆候を工夫し、静と動のメリハリをつけている。	遊具の経年劣化や破損・紛失を確認している。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4	1	自分からクールダウンスペースに入り、気持ちを落ち着かせることができるように声掛けを行っている。	パーテーションで区切っているのみなので他児の目をきにするお子さまもいる。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5		情報共有を行うことで参画できている	問題点や情報共有はすくに行えるようにしている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	3		外部評価を委託するに至っていない（業務改善に基づき評価を行わなければならない事案が出たら考える）
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		研修は多いと思う。	必要な研修は全員が参加できるように時間を作っている。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		一か月の中で五領域のねらいが全て含まれているプログラムになっている。	月間プログラムカレンダーをお渡ししているが見ていない保護者も多いと感じる。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		事案がある際は即時行っている。	もう少し増やしても良いと思う。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4	1		パート職員に対する共有方法（朝礼・昼礼・紙ベースの情報）がある
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	1		人によりばらつきがあるので担当や方法を改善したい。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等サービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	1	プログラム進行の職員が周知している。	プログラム内容を周知し必要な物品があれば皆で作成している。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	2	必ずではないが何かあれば共有している。	職員全員への共有をはかる。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	1		

適

切 な 支 援 の 提 供	23	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		半年に一度の面談を徹底している。家庭や学校での変化をモニタリングしている。	職員全員に情報をリアルタイムで周知することが難しい。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	5		創作活動や余暇をバランス良く取り入れられるように配慮している。	地域交流は計画が必要。	
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		活動の選択肢を視覚カードで提示している。	選択肢の提供方法を多様化させたい。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		児発管・管理者が参加している。		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5				
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		ケース会議を開き、今後の対応策を考える機会がある。		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	4		1		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2		3	学校を卒業した児童が今のところいない。併用している事業所内では情報共有している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	5				
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。			5		交流の機会は作れていない。また、今後も見直しは立っていない。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	2		3		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5			送迎時にコミュニケーションを取っている	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1		4	電話相談支援を行っている。	機会が設定できない。定休日がないため連続講座を行うことも要因。
保 護 者 へ の 説 明 等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5			重要事項説明書に基づき、契約時に丁寧な説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5			お子さまの希望と、保護者の願いを丁寧に聞き取り、納得感を重視している。	お子さま自身の意思表示が難しい場合でも表情や行動から意向をくみ取れるようにしたい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5			分かりやすくお伝えできるように、専門用語をかみ砕いてお伝えしている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5			お電話や送迎時など、ご相談に応じては面談を行って支援している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設けているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	3		2	今年度も教室解放『秋祭り』を開催し多くの来客がありにぎわった。	時間や様々な縛りを少なくしたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5			些細なご意見も記録や周知に努めている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5			毎月の会報誌やSNSの更新に心がけている。	SNSの更新が遅れがちになる。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5			書類やデータの保管や廃棄ルールを徹底している。	パソコンのセキュリティなどの理解ができていない。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5			絵カードを使用して意思を伝えやすいように環境を整えている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2		3		地域活動に参加する手立てが分からない。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5			各マニュアルを作成し、訓練を行っている。	

非常時等の対応	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		震災や感染症の蔓延を想定したBCPを作成している。	避難歩行訓練の回数を増やしていきたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		保護者からの申し出による対応。（触らないように距離を取るなど）	アレルギー対応児重の見直しを行う。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		安全管理の研修を行い、指導員ひとりひとりが危険を予測して動けるように意識している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5			連絡先が変更になった際に、即時記録の変更や確認を行っている。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		事故につながらなくても、小さな気付きも報告・記録するようにしている。	統計的に把握し、予測できるとよい。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		マニュアルを作成し、虐待防止研修を行っている。	職員同士で不適切な発言や関わりを指摘し合える風通しのよい職場を目指し、研修の際に話し合いを行いたい。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		身体拘束は原則禁止という意識を再確認するために研修で学んでいる。	身体拘束や強度行動障害に関する知識を深めるための研修も行いたい。